

… はなの村の四季 …

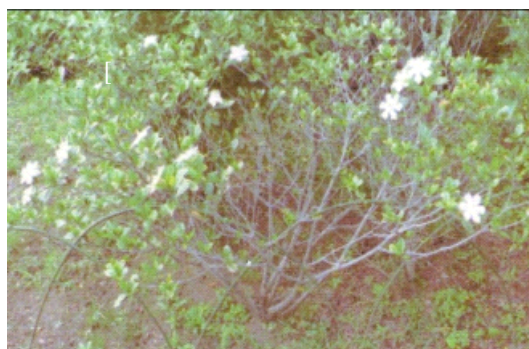
むし暑い初夏に芳香を放つクチナシ(くちなしのはな梔子花)

小 関 栄

渡哲也が「くちなしの白い花 くちなしの花の香り
が旅路の果てまでついてくる くちなしの白い花……」と歌った
ように、クチナシの花は七月初まだ梅雨も明けぬ曇
日でも、白い花が甘い香を放って咲き、辺り一面を明
るくする。

春先に新芽が出て数年は古葉が残っている常緑
の花木、初夏に純白な花を咲かせ、秋十月頃に細長い
黄赤な実を付ける。熟しても実は蕾のように口を開かないので、この名前が付けられられた。また
の名をガーデニアともいって園芸用に育てられている。クチナシの漢名は梔子花(しか)、漢字の梔
の一字で「くちなし」と読む。英語では香りが良いので Cape Jasmin(ケープジャスミン)。

昔から我が家の庭に多いのは、私の祖母や近所の人たちが、この実を採って節句の菱餅や雛あられ
の着色剤としたり、布の染料にしたからであろう。中国では梅、百合、菊、桂、水仙、茉莉と並んで
七香の一つになり、この花を飾り、香を衣服に移したり、また、そのまま食用にしたり、お茶に入れて
飲んだりと色々に活用されている。さらに、乾燥して漢方薬の原料にもなっていると云う。



花言葉は「幸福過ぎる」、初夏の季語。北原白秋作「桐
の花」に「夏の日懐かしきかな ころよく梔子の花
のもちてちる」がある。

[もちてちる=満ちて散る]

(写真は我が家の庭のクチナシ、25, 7, 7 撮影)

今朝もまた 白いクチナシ ふいく馥郁と 淡水

bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb

「なんじゃもんじゃ」の木



前73号掲載の花暦エッセイの「なん
じゃもんじゃ」について沢山の方から問
い合わせがありましたので再録しまし
た。場所は掛川市千羽の南、掛川バイパ
スの北約100メートルの処の杉山文
男さん(92歳)の庭にあり、昭和40
年代に浜北市の緑化木センターから移
植したもので、現在は20メートル余の
巨木です。写真はその杉山さんから提供
して頂きました。 小関 栄